

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 TEL06-6833-9227

広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田 茂夫 TEL072-850-5781

<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成16年11月(2004年) No.467

増えてきた例会作品に うれしい悲鳴と課題

先月10月の例会では27名の出席者と、17本の作品が出品され、司会の有村世話役も時間を気にしながら講評もそこそこに、上映するだけでも大忙しの有様でした。出品者にしてみたら、苦勞してまとめ上げた作品に対して、何か助言なり感想なり、反響を伺いたいところでしょうが、限られた時間内ではある意味では仕方がないことだろうと思います。

過去の1例会当りの作品数を調べてみますと、平成13年度12.4本、14年度11.3本、15年度は12.3本であったのに対し、今期16年度はこの10月までの平均値で14.9本、すなわち、1例会平均15本、多い月は18本でした。

当クラブは上映時間を制限をしていないので、このところ上映に追われてじっくりとじた助言なり会員さんの声なりを伺う時間がとれないのは残念なことです。確かに会員諸氏は作品制作に意欲を持って取り組んでいただき、例会で皆さんを楽しませて頂いていることは大変喜ばしい限りです。

しかし、せっかく苦勞して作った作品について、皆さんからの幅広い声や貴重な助言も受けたいと、いささか欲求不満の方も居られるのではないかと、そんな気がします。二次会での話題だけでは充分とは云えません。

この2年ほど、作品研究会もテーマが見つからないまま中断していますが、来期は時々再開させてみたらどうか、とも思います。過去の例から云えば、作品研究会は出品数も出席者数もいまひとつ少なく活気に欠けていたようにも思います。そこでどこか他のクラブと合同主催とし、持ち回りで世話していくのも一つの方法ではないか、そこで作品ごとにじっくりと意見の交換なり助言し合ったりする機会を設けたらどうだろうか、などと考えたりもします。何かいい考えがあったら教えて下さい(合原)。

11例会のお知らせ

11月例会は第4土曜日27日、大阪市立難波市民学習センター(OCATビル4階)にて18時より開催します。このところ作品数も増えていきます。どうぞお早めにお越しください。(なお12月例会も第4土曜25日を予定しています。ご予約の方もどうぞよろしく)

10月例会のレポート

10月の例会は23日の午後6時より何時もの例会場で開催しました。今月例会の一番の話題は藤原さんが、早速持参されたSONYハイビジョン映像の初公開です。司会、有村さん、書記、前田さん、デッキ係に河合さん、増池さん、岡本さん、受付兼照明係を宮崎さん、渡辺さんの担当で会を進行しました。

◆出席者：有村、江村、奥、岡本、上総、紙本、河合、金子、合原、黒田、進藤、中尾、西村、秦、藤原、前田、松本、増池、森、森下、森口、森田、安居、山本、吉岡、宮崎、渡辺、(敬称略)の皆さんの合計27名、出品作品は17本でした。

◆上映作品(今月の講評：前田世話役です)

1. 西梅田寸描

増池 茂さん 6分45秒

同じ西梅田の前作「通路」が単調だったのくらべて、今作は映像に変化があって良かったと思います。前半に登場する人物の捉え方も適切です。ストーリーの展開は地下から始まって地上へ、地下へまた地上への構成になっていますが、見ていて混乱するので地下から地上へで終わるべきでしょう。高速道路の橋脚部分3カットは綺麗でもないので不要です。ラストカットが平凡で短すぎます。地上の広々とした西梅田らしい風景で余韻をもって終わらせて欲しいと思います。

2. 歩行てん(ワイド)

森田光春さん 7分51秒

森田さんの初ワイド作品です。このような記録にはワイドはピッタリの手法です。去る10月17日の御堂筋オープンフェスタの記録です。新橋以南の通行止めから市長のオープンセレモニーへと展開します。バンド演奏から、特技を披露するパフォーマンスも登場し楽しい雰囲気伝わってきます。一脚使用の撮影だそうですが、画面が安定しております。しかし時には手持ちで通行人、観客の中へ飛び込み楽しそうなアップの表情があればもっと良かったと思いました。

3. あばれ祭

紙本 勝さん 12分20秒

日本の各地のお祭を精力的に追われる紙本さんは今回もあまり知られていない祭をモノ

にしてられました。石川県能登町宇出津^{うしつ}という町の祭です。副題に「紅蓮の炎に神輿とキリコが舞う」と付けられています。神輿が登場したと思ったら、いきなり海に投げ込まれ、男たちも飛び込んで海の中で神輿をもみます。”あばれ祭”のスタートです。大暴れるほど神様は喜ぶそうで、日本には変わり者の神様がいるものだとまず驚かされました。さらに焚き火にくべられたりしますが、神様は火傷をされたり、怪我をされたりしないかと懸念されます。ストーリーは夜の炎が輝く中を沢山のキリコ(奉灯)がねり歩く情景に続きます。この部分は火の粉が飛び散り、その中をキリコや人物がアップでたたみかけるように登場し、変化に富み素晴らしいクライマックスとなっています。編集の上手さを如何なく発して観客を惹きつけます。お祭が得意な紙本さんの真骨頂を発揮しています。インサートカットの使い方も上手で見習う点が多々あります。強いて云えば、炎のあるクライマックスが約5分間続き食傷気味になることです。迫力のあるカットはもっと整理して短く見せるほうが観客の印象に残るでしょう。また花火も出てきますが、実際に花火が上がったにしろこの作品では花火はないほうがいいでしょう。しかし迫力のある紙本さんならではの素晴らしい作品です。

4. 水・流れの表情(ワイド)

上総修一郎さん 4分45秒

大きな瀧と水の流れだけで纏め上げた作品で、自然な水の表情を見て欲しいという作品です。一番気になったのは、BGMが全くミスマッチです。全編をピアノのモダンジャズで通していますが、ここはやはり流れるようなオーケストラ音楽を最初とラストに聞かせて欲しいかと思えます。中間はSEだけでいいでしょう。TOPシーンから迫力ある瀧がでます。いきなり観客の関心を惹きつける効果はありますが、後が尻すぼみになります。やはりオーソドックスにTOPは静かな湖面、小さな流れ、速い流れ、大きな流れ、最後に迫力ある瀧で締めくくったら如何でしょうか。ラストの里の生活排水でいっぺんに気分を壊されました。終わりマークに地名を小さく入れるほうが親切だと思いました。

5. ガンバレ鈴振りさん「笑い祭」

森口吉正さん

9分20秒

名水紀行で独特の作風を作り上げた作者は、今回は地方の小さな祭に焦点を当てられて撮ってこられました。和歌山県川辺町のお祭だそうで、どのようにしてこの珍しい祭を知ったのでしょうか。この作品では”鈴振りさん”と呼ばれるお神輿の先導役さんに焦点を当てています。えべっさんえいのような派手ないでたちで”家(永) 楽じゃ、世は楽じゃ”という掛け声で祭りは盛り上がっていきます。道中で鈴振りさんは笑いを振りまき祭を楽しく盛り立てます。インタビューもあり、主人公を追っかけてその活躍を記録したことが単なる祭の記録から一步踏み出して成功した作品だといえます。

6. 花は何処に？

奥 宏さん

4分20秒

浜名湖の花博を撮ってこられたもの。映像を見せてもらっても、確かに花が少なく、花がない花博なんて！ということ表現されたかったという意図はわかりますが、今年の夏は近年ない猛暑で時期が悪かったのでは？との司会者のコメントでした。

7. 音楽法要

安居利次さん

4分00秒

近所のお寺から依頼された音楽法要という新しい試みを撮影されたもの。一人で撮影するために、VX-2000を三脚に固定し、ご自身は手持ちの小型カメラで移動撮影するという苦心の試み。途中で無人のVX-2000が三脚ごと倒れるというハプニングもあったそうですが、幸いカメラは無傷で親鸞上人が守って下さったのだろうというオチでした。

8. 国際火車

山本正夢さん

6分40秒

毎回中央アジア、東南アジアを独自に取材された映像を見せてくださるので、非常に楽しみにしています。しかも一般の人が行けない辺鄙な地方の珍しい被写体をモノしてこられます。今回は北京からモンゴル共和国の首都ウランバートルに直行する国際列車、1400Km30時間の乗車体験記です。圧巻は国境の町で台車を付け替える作業で、台車取替作業3時間、通関に3時間の計6時間は列車から出ることは許可されないという体験をされたそうです。この間トイレは使用禁止で乗

客はつらい思いをしたそうです。乗客を客車に載せたまま、大型クレーンで吊り上げ台車を交換する、その様子を客車の窓越しに撮影していますが、女性乗務員も交換作業に手を汚していました。大平原に沈む夕日とゴビ砂漠に昇る朝日の美しさは圧巻でした。中国のレール幅は標準軌(1435mm)ですが、モンゴルは広軌(1520mm)であるために台車の交換が必要です。そんな面倒なことをせずに、広軌の列車を用意して乗り換えたら、との声も上がりましたが、いかにも中国的な情景で非常に興味深く拝見しました。ドイツ、フランス等ヨーロッパ諸国の大多数は標準軌(新幹線と同じ)ですが、当時のロシアは標準軌を採用すると、戦時にドイツからの侵入をた易くするため、敢えて1520mmの半端な広軌を採用しました。ロシアが敷設したからモンゴルも広軌になりました。

9. ネパール・パカラにて

黒田敏彦さん

12分00秒

朝焼けに輝くヒマラヤ連山の美しさは、下手な文章では表現できません。神秘的で、人間を圧倒する荘厳さ、山々の高貴さ、大自然の美しさを余すことなく見せてくれます。山懐の寒村の人々をそれとなく描き大自然とそこに生きる人々の生活を見せてくれます。屈託のない子供たちの笑顔はさわやかです。粗末なブランコに大勢乗ってロープが切れたら大事故になるのにと心配させられました。そして夕闇が迫り、夕日に染まったマチャプチャレのズームバックになります。ここでエンディングにすべきでしょう。その後の花からのズームバックは不要です。比較的長いノンナレ作品ですが、映像が綺麗なので最後まで引っ張っていってくれました。

10. 大阪城界限を歩く(ワイド)

有村 博さん

6分53秒

ワイド作品にどう取り組んだらいいのか、ご自分で納得できるようにとつくられたワイド初作品です。ご自分で確認しながらナレーションで説明が入るので、大変判りやすくワイドへの取り組み方が理解できます。ワイド作品にどう取り組んだらいいのか悩んでおられる会員さんには勉強になったことと思います。素材はワイドにピッタリなので作者もこれからワイド党になられることと思います。

11. 立石寺(山寺)改作

吉岡貞夫さん 8分00秒

先々月例会にノンナレ作品として持参されたものにナレーションを入れて仕上げたもの。やはりこのような紀行風作品はナレがあるとグッと引立ちます。大変判りやすくなり、立石寺をお参りした気分してくれます。

12. 天空の華

河合源七郎さん 8分39秒

「天空の華」というタイトルの付け方はなかなかお上手です。海上から打上げる花火は豪快な感じで迫力があります。BGM(ラプソディー・イン・ブルー)は花火とよくマッチしていますが、常時流すのではなく、最初と最後にだけにして中間はSEだけにする方がいいでしょう。音楽も中間部分中はだるみで映像に合っていません。花火の作品で一番欲しいカットは花火を見上げる観客の顔の表情です。携帯用照明器具は必携です。このようなカットがあれば作品の重みが数段あがるでしょう。海面の水平線がかなり曲がっていますので注意しましょう。時間が長すぎるのもっと短くして欲しいですねと、司会者からのアドバイスがありました。

13. 義経がんばれ

前田茂夫さん 9分13秒

SL好きな筆者の作品ですが、もう一つ突っ込みが足りなかったと反省しています。それにしても梅小路蒸気機関車館は集客が下手です。義経号の時もそうでしたが、鉄道の日 of ライトアップのイベントなども、もっとマスメディア上手に使えば観客も増えるであろうと、行く度に思います。職員に広告代理店のOBでも採用すれば状況が好転するのではないかと他人事ながら痛感しました。

14. HDで撮りました(ハイビジョン)

藤原純三さん 11分00秒

10月15日に新発売になった注目のソニーHDR-FX1を早速持参されました。まだ編集ソフトが未整備ということもあって、FX1を2台(1台はご友人のもの)並べカメラ→カメラの簡易編集されたもの。HDVはMpeg2-TSでDVのように1フレームずつの圧縮ではなく、複数フレームの圧縮方式であるため編集が難しく、カット替りの最後のフレームがSTOPするという状況です。ソニー

HDVは60i(DVと同じ)であるので、移動体被写体、パンニング等はビクター機と違ってパラパラ感のある不自然さはない。精鋭度はさすが1440×1080ドットのピントの良さを発揮して素晴らしい。一方プロジェクターは1270×720ドットなどで、FX1本来の精鋭さはプロジェクターでは見られないのが残念。発色はさすが3CCDで微妙な中間調を表現している。さすがに本格的なHDV(1080i)で綺麗さは抜群です。これからのアマチュア映像の進むべき方向が示されたと思います。先発のビクター機(720P)とは格が違うという印象です。ただ、問題はあの大きさと重さで、三脚も大型が必要で、どこまで一般アマチュア映像作家に受け入れられるかということでしょう。多分来年中に発売されるであろう2号機はもっと小型軽量機になるはずで、本格的な普及はそれからではなからうかと思いました。

15. 吉田春日神社秋祭り(ワイド)

江村一郎さん 5分50秒

ハイビジョン映像上映直後だけに大変損をしました。お気の毒ないことです。夜の祭を全編手持ちで長回ししています。BGMを使っていないので盛り上がり欠けています。いつもの江村流らしいアップ・カットを連続してたたみかける様なキレ込みがなく平凡な作品になってしまいました。

16. 梅田いまむかし

合原一夫さん 6分27秒

作者お得意の8ミリフィルムをテレシネにして組み込んだ過去と現在の対比をテーマにした作品です。貴重な過去映像をこうして活かす作者の企画には脱帽です。筆者も昭和41年から8ミリフィルムをやっていますが、このような映像は撮影してなく、今ある被写体を今ある機材で沢山撮っておくべしという教訓を示してくれた作品でもあります。

17. 三社祭

中尾雅博さん 10分00秒

関西人には馴染みがない日本三大祭の三社祭の記録です。関東ヤクザの担ぐお神輿や人御輿をメインに追っています。もろ肌脱いだ全身の刺青の凄さには圧倒されました。お祭だから撮影も許されるのでしょうか。公開映写会には上映出来ませんね。